禮服着用圖

禮服着用圖

ヘ二
4

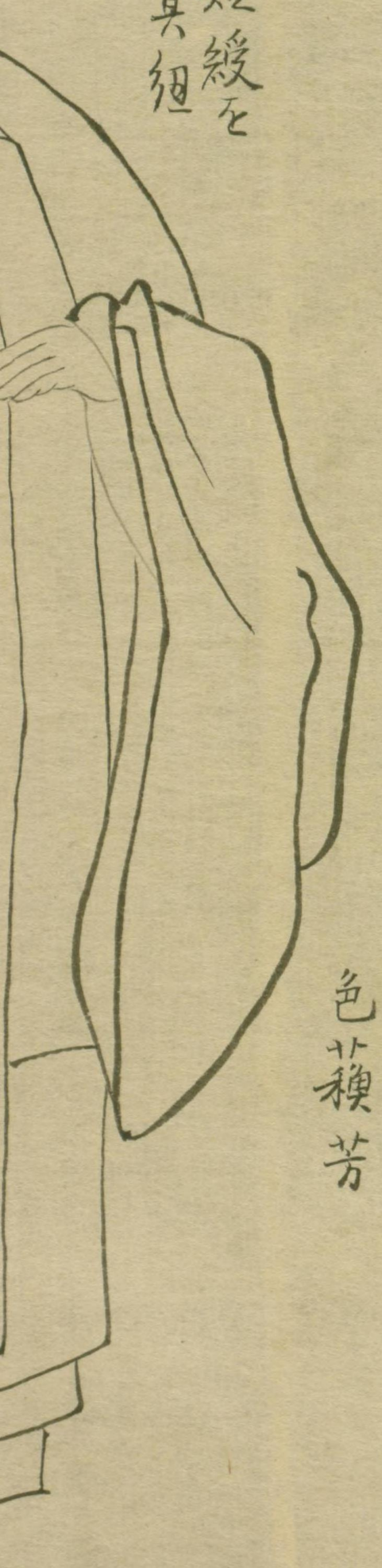
二八 4

先烏帽をして次に単袴着大口表袴常のことくきる其上に裳をと
後より前へ引まはして後なる緒を右の肩より引越して前の
左の脇なる短き緒にむすふ表の袴の裾より裳をハ三寸あけて
きすへし其上に小袖をきる裳の裾より四寸あまりあけてきすへし
小袖より大袖又三寸あけてきる大方表の袴の裾より大袖の裾まて
一尺につめる通し大袖の下かひのたまなる紐を左の脇にかくへし

禮 4

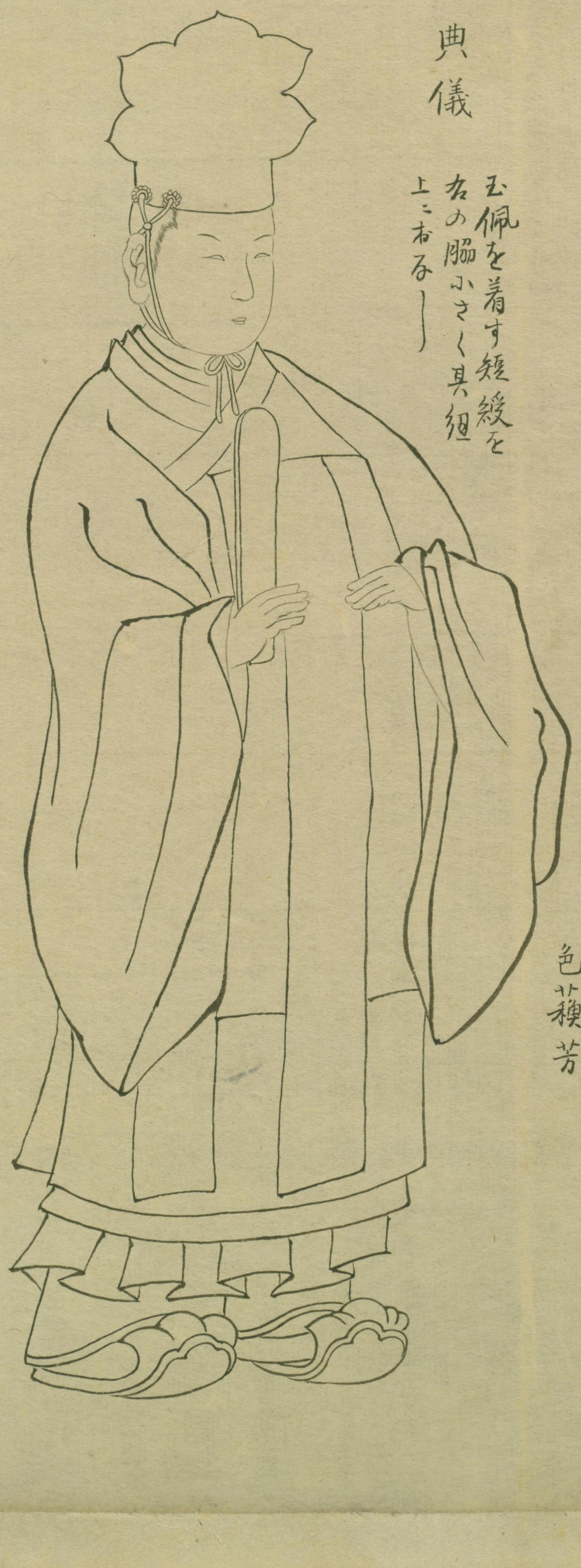
ヘニ 4

先烏帽をして次ニ単衣着大口表袴常のごとくきたる其上ニ裳を後より前へ引まはして後なる緒を右の肩より引越して前の左の脇なる短き緒にむすふ表の袴の裾より裳の裾ハ三寸はなれてきすへし　其上ニ小袖をきる裳の裾より四寸あまりはなれてきすへし小袖より大袖又三寸はなれてきる大方表の袴の裾より大袖の裾まて一尺につもる通し大袖の下かさねの左まなる組を右の脇にかくへし其上ニ綬をあてゝまへにむすひて下一枚を上にかさねして結目をかくして上のあまりをたすへし　右の脇ニ短綬をさく絆ハ綬に付なし右の膝ニ當て玉佩を付けたり上にある緒を綬の下より通して用ふなりゆひめをかくして綬にさはさまく冠の左右ニ緒ありて其緒を耳の上より前へ後へ越して頤の下にて用ふへし烏帽の上ニ燈心の端をふさにかふして三つも四つもかさね祢入なり冠を除くいわし料なり烏皮の履より緒つきたり足の上ニゆふへし



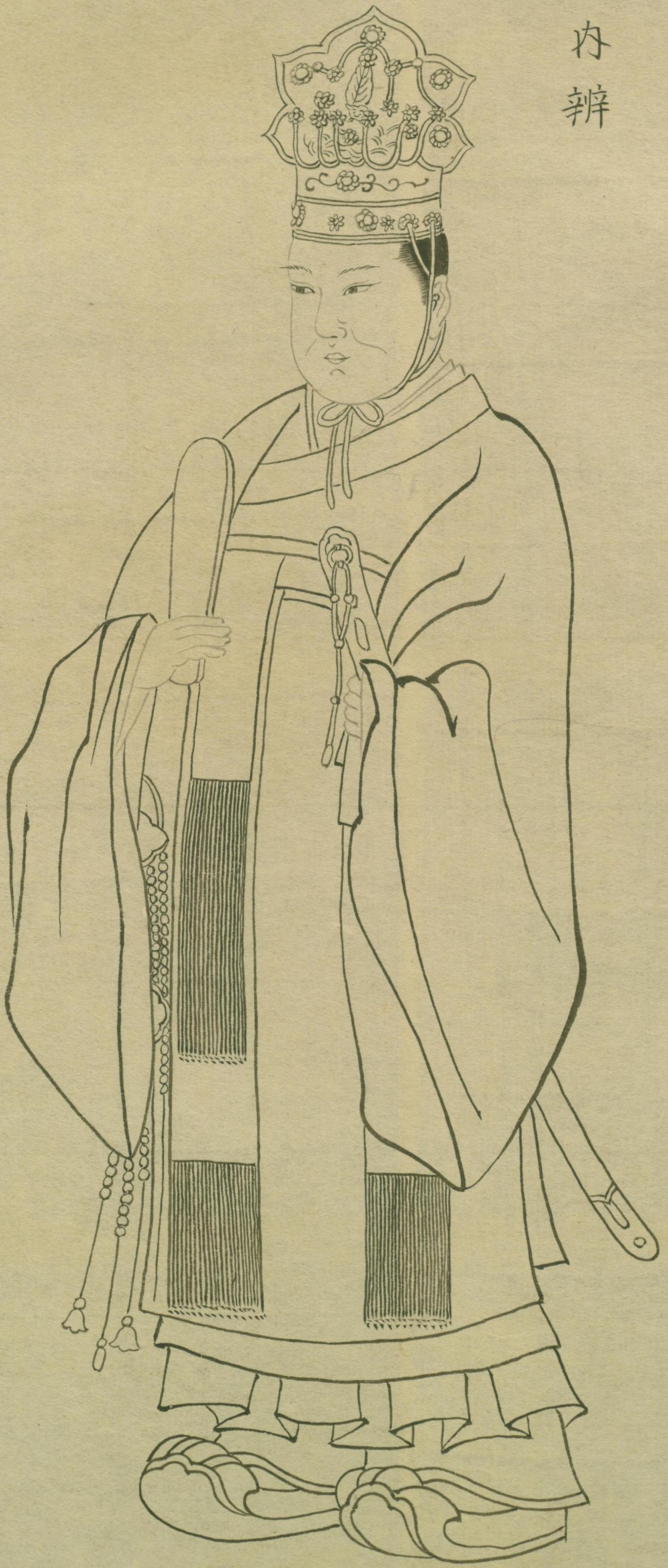
右の腰に蔽て玉佩を付けたり上にある緒を綬の下より通して用ふなり其ひもをかくして綬にまきて冠の左右に緒あり其緒を耳の上より前へ後へ越して頤の下にて用ふへし烏帽の上に燈心の縄をふたへにかけして三つも四つもかさね入なり冠を除くいれし料なり烏皮の履より緒つきたり足の上にゆふへし

典儀

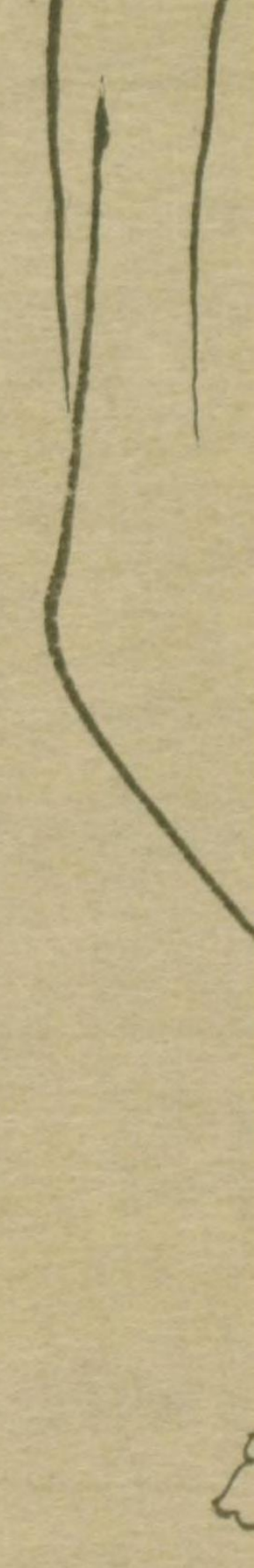

玉佩を着す短綬を右の脇にさく其組上にあるし
色蘇芳

内辨

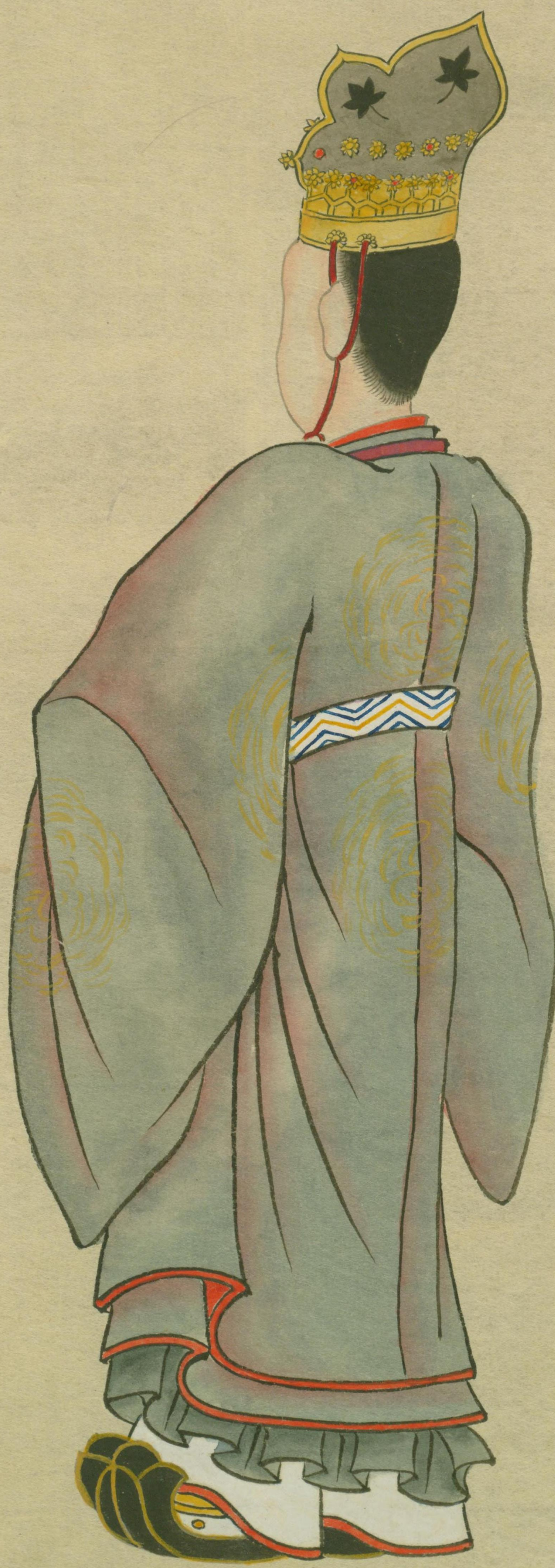
内辨



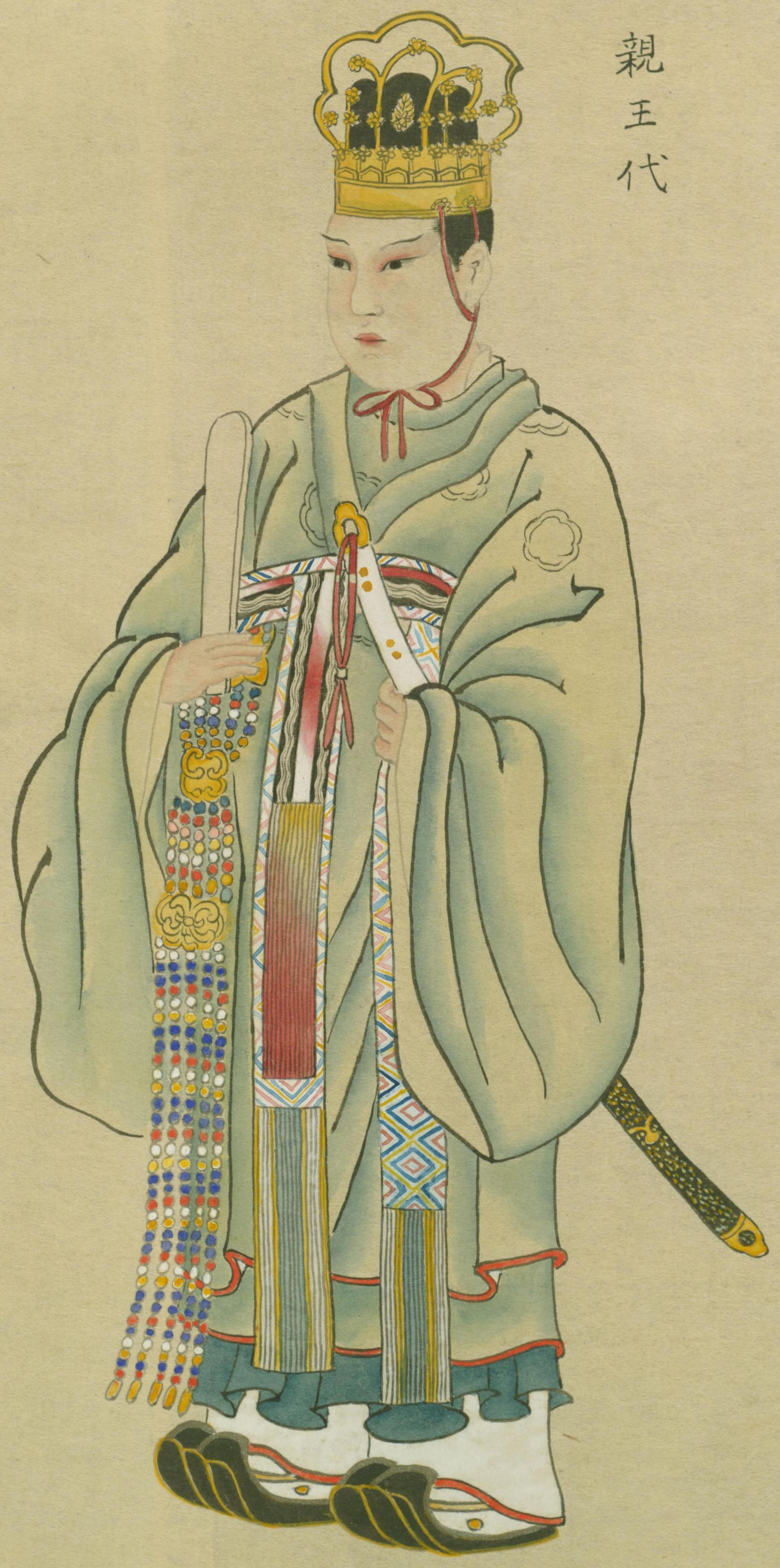
外辨



外辨



親王代



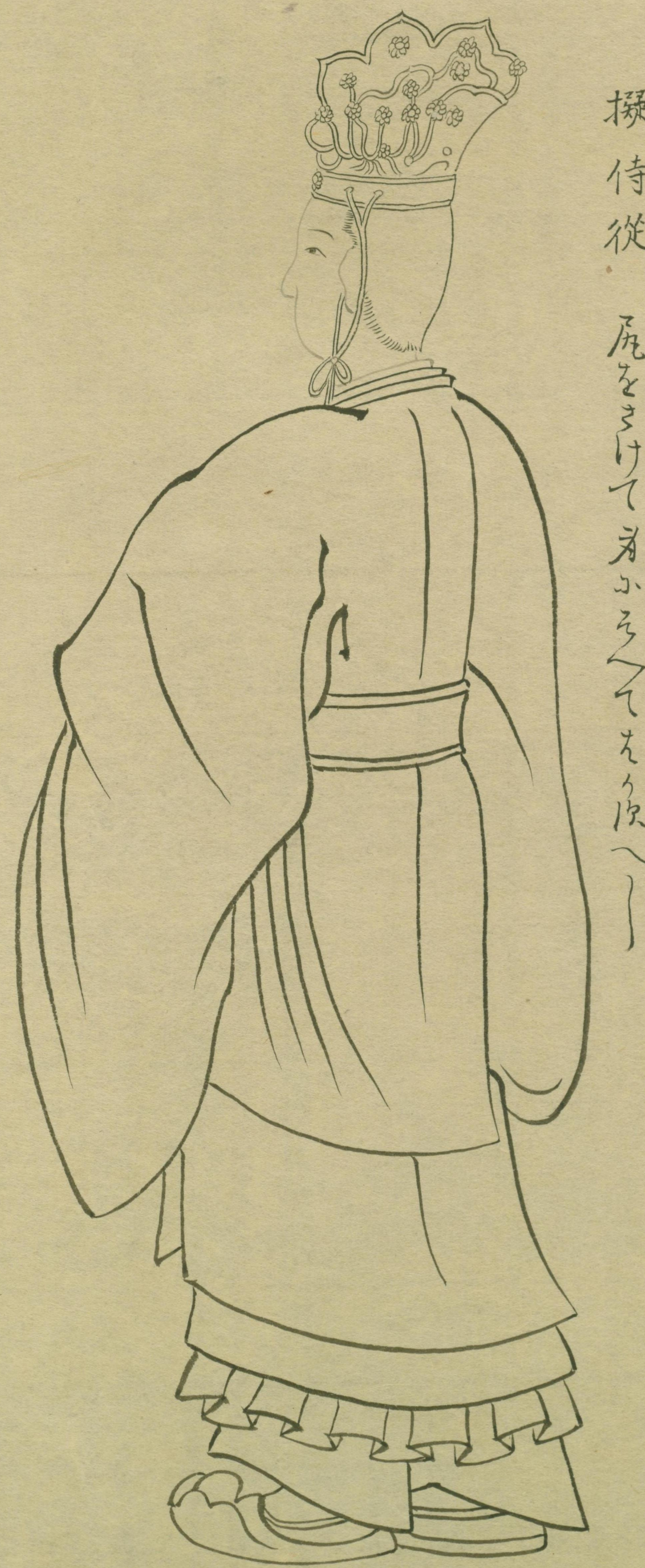
親王代

擬侍従

太刀をはく平緒常のごとし太刀ハ
尾をさげて前にそへてはく次へし

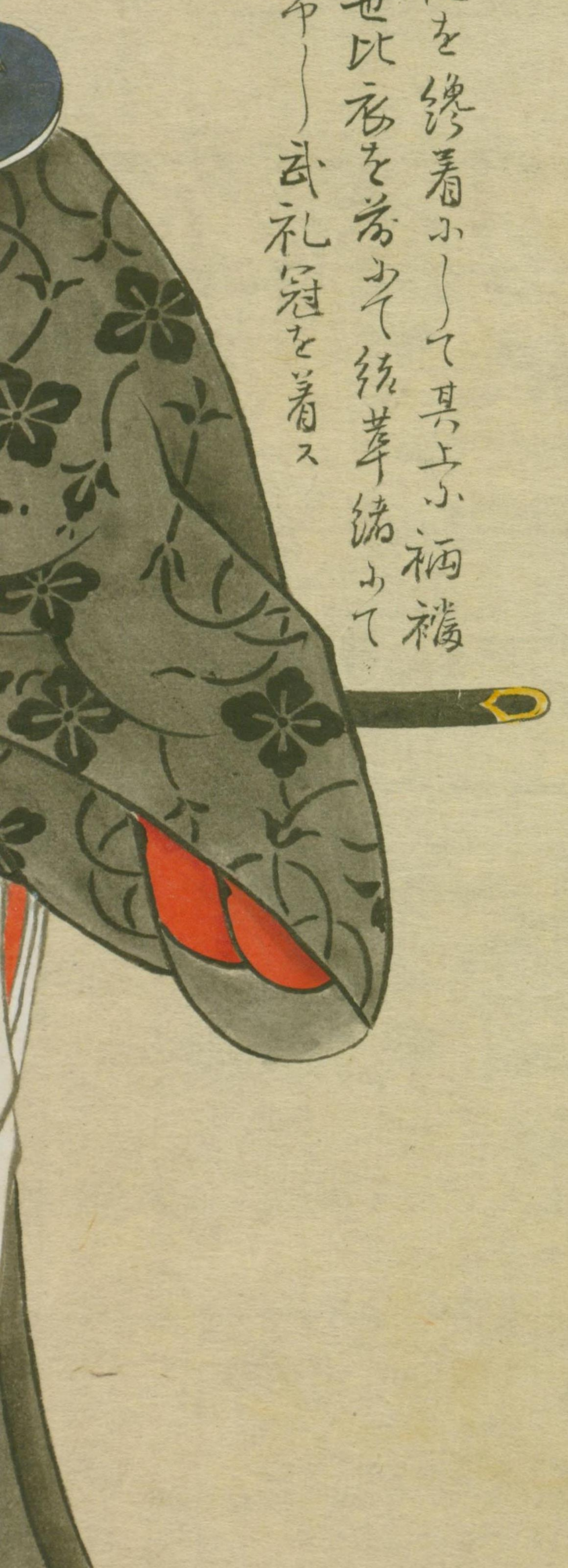
擬侍従

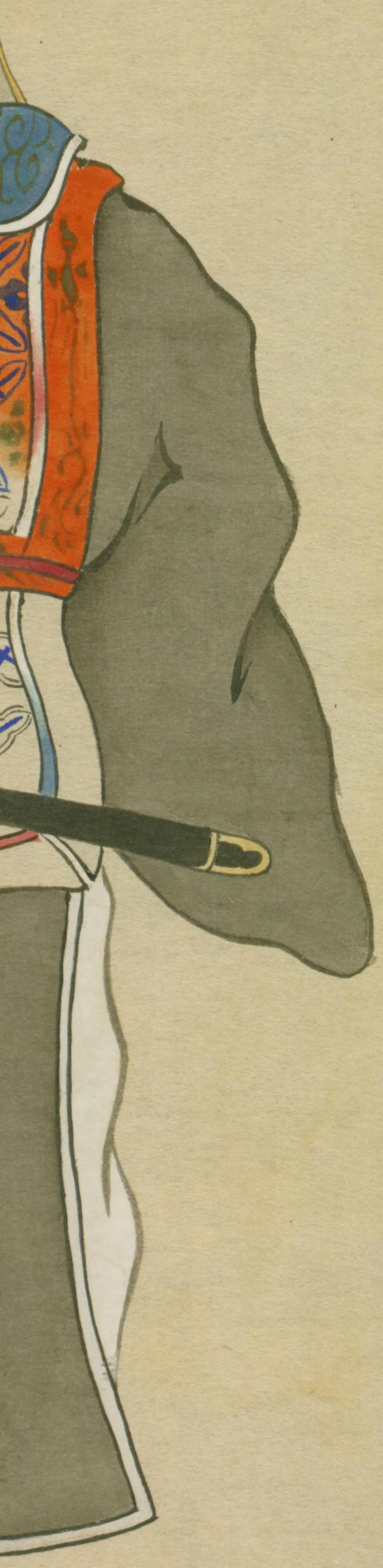
太刀をはく平緒常のごとし太刀ハ尻をさけて身にそへてたち候へし



大将代

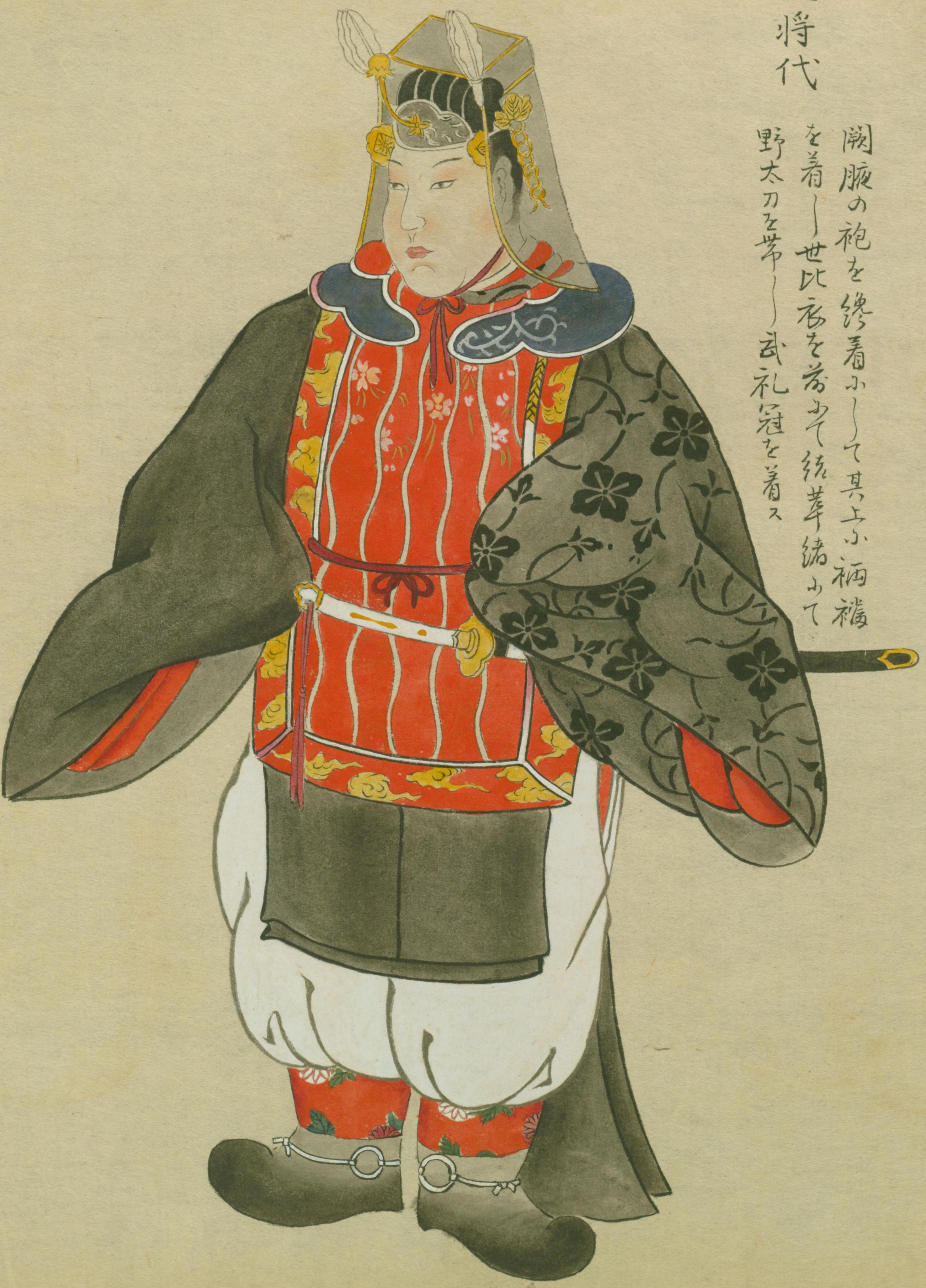
闕腋の袍を纔着にして其上に裲襠を着し世比衣を着して纈華緒にて野太刀を帯し武礼冠を着ス



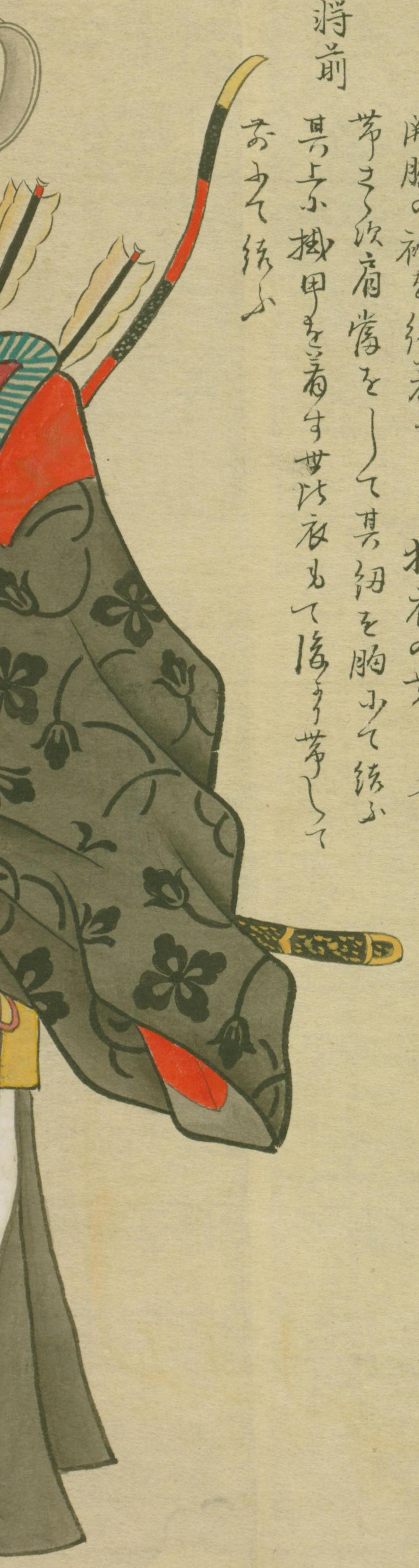


大将代

闕腋の袍を總着にして其上に裲襠を着し世比衣を帯にて絃華緒にて野太刀を帯し武礼冠を着ス

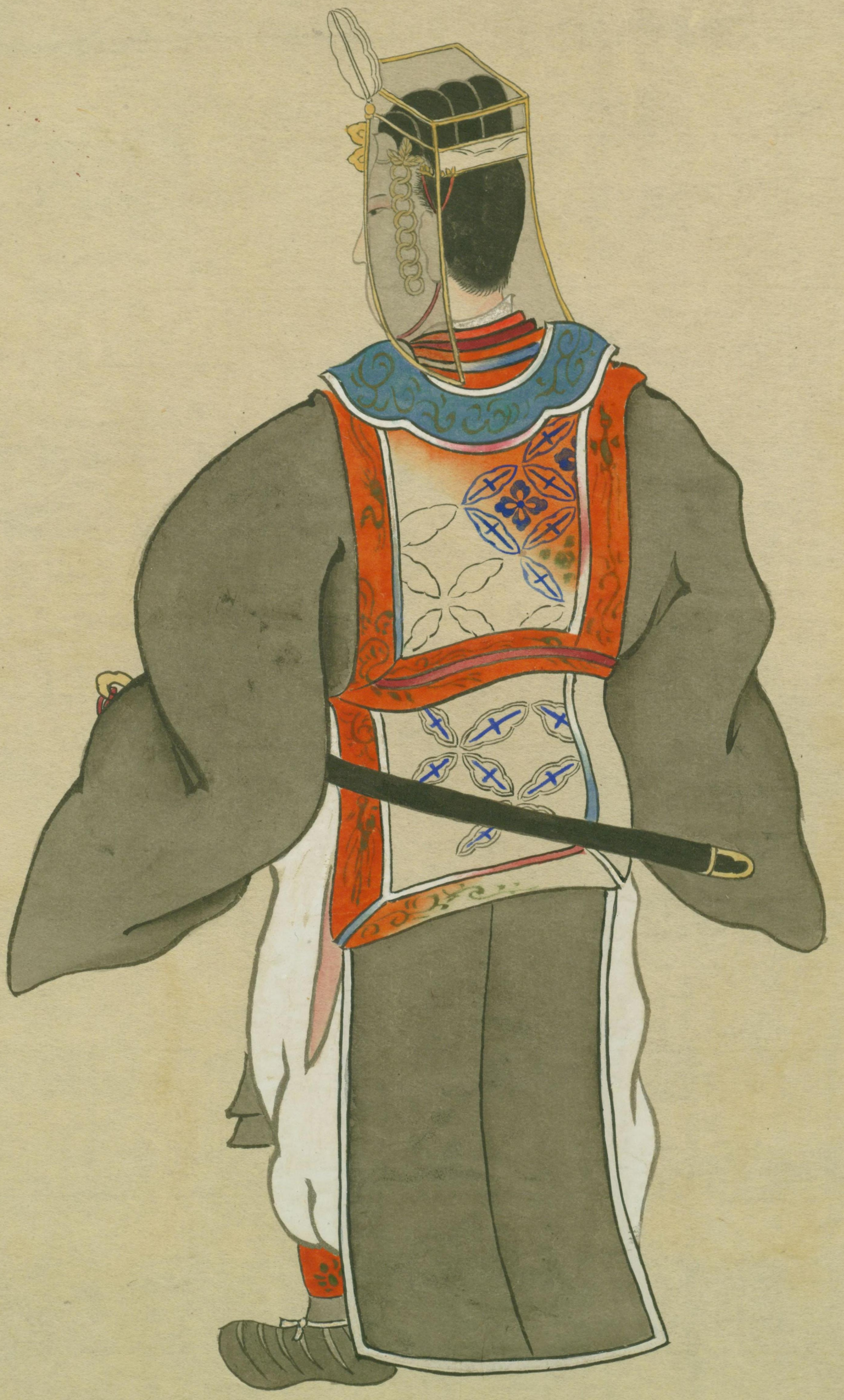


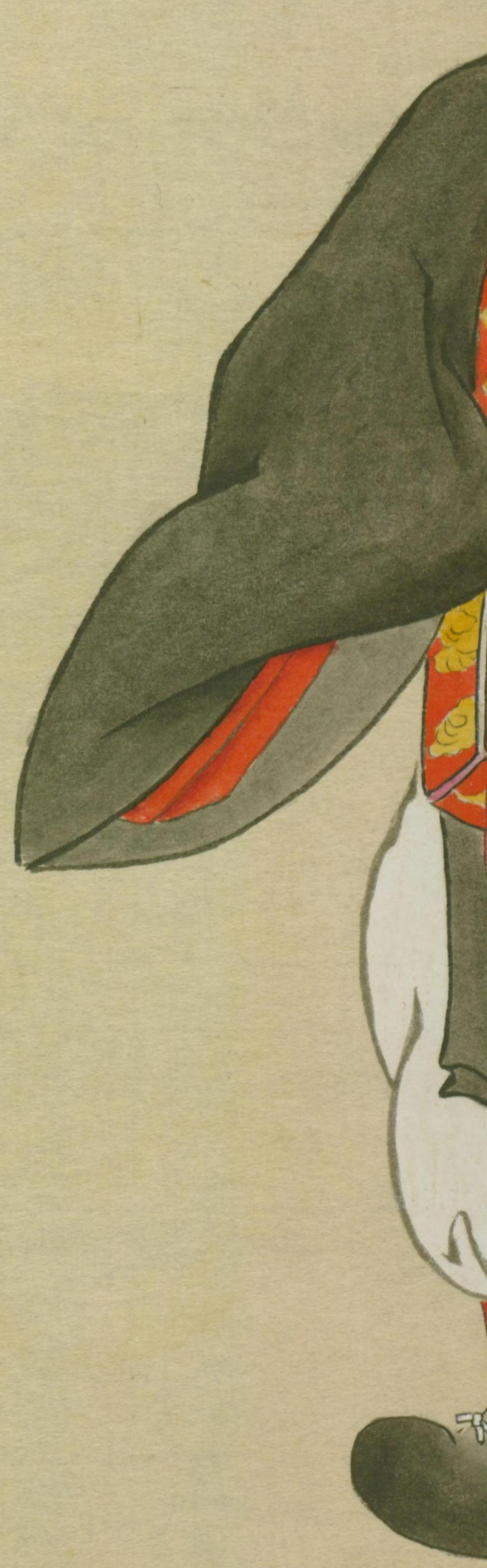
国立国会図書館　　タイトル『礼服着用図』 請求記号 へ二-4



次将前

闕腋の袍を後着にして 狩衣の帯して
帯にて次肩當をして其紐を胸にて結ふ
其上に掛甲を着す世汝衣もて後に帯して
前にて結ふ

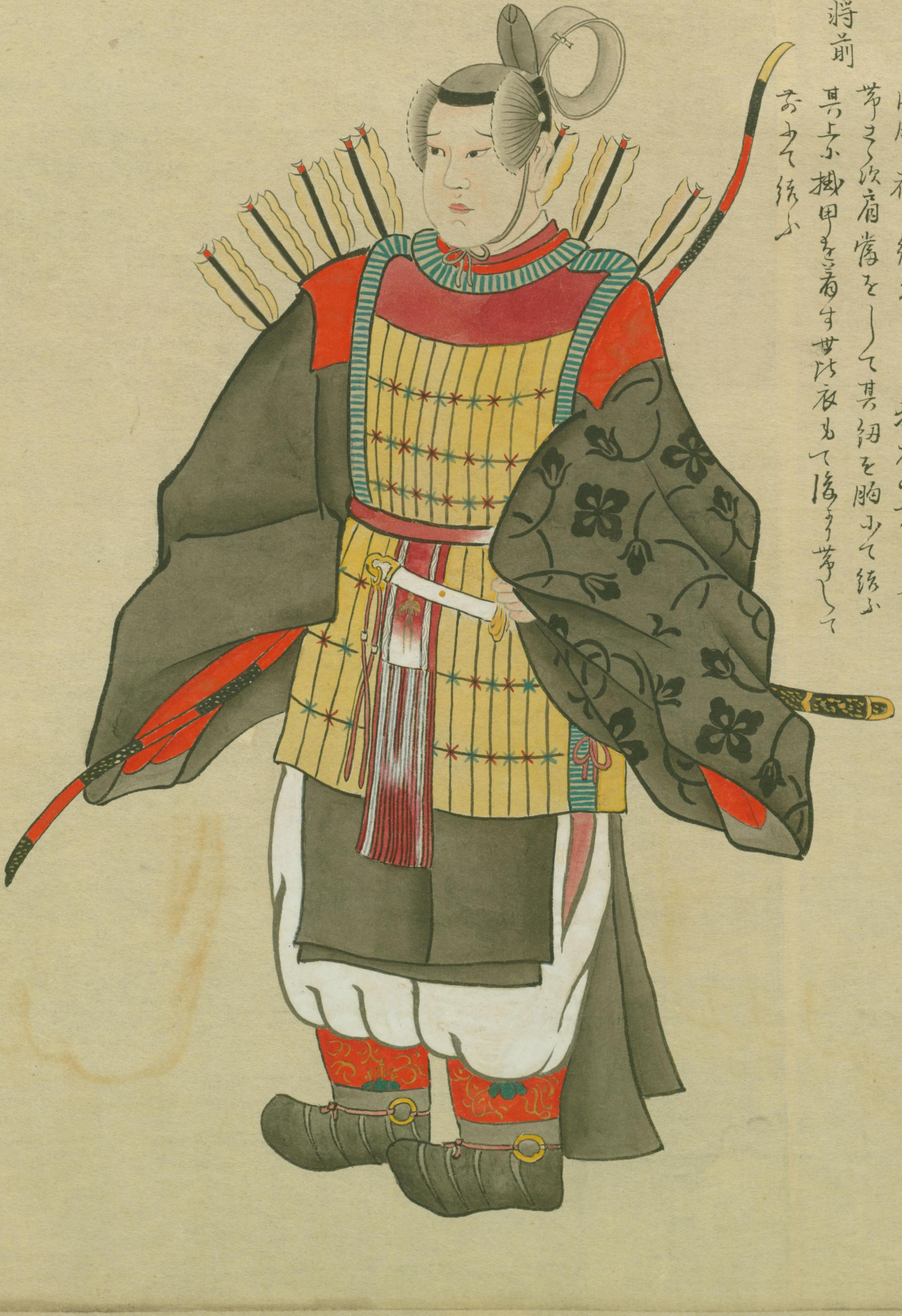




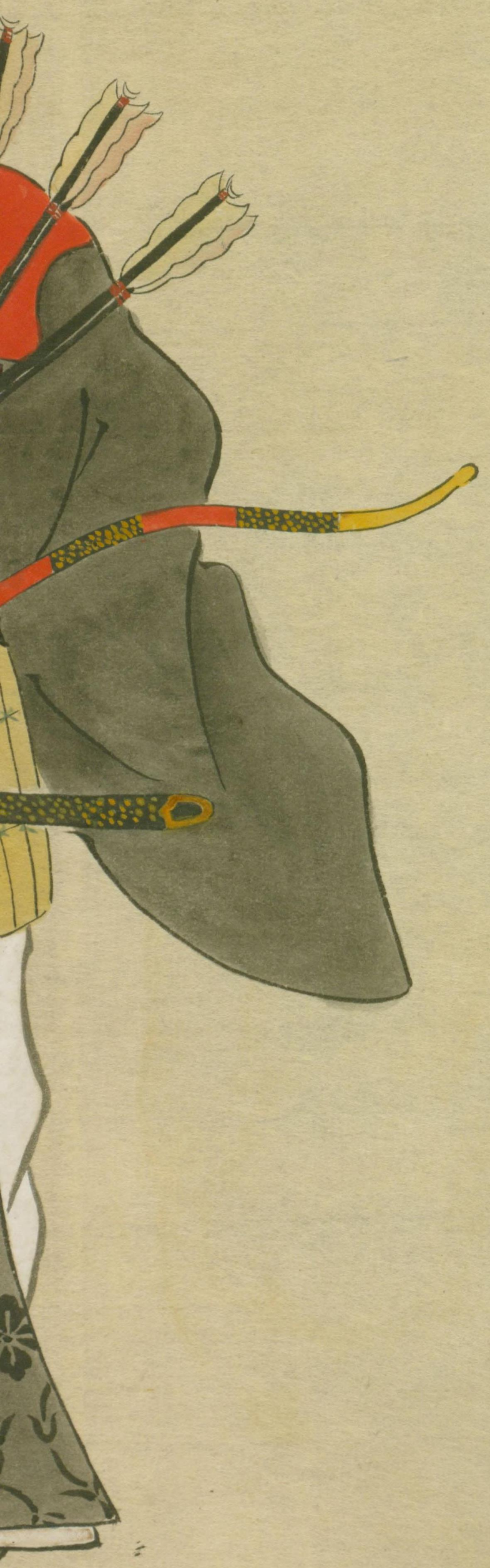
国立国会図書館　　タイトル『礼服着用図』 請求記号 へニ-4

次將前

闕腋の袍を縫着にして狩衣の帯して
帯より次肩當をして其紐を胸にて結ぶ
其上に掛甲を着す其比衣にて後より帯して
前にて結ぶ



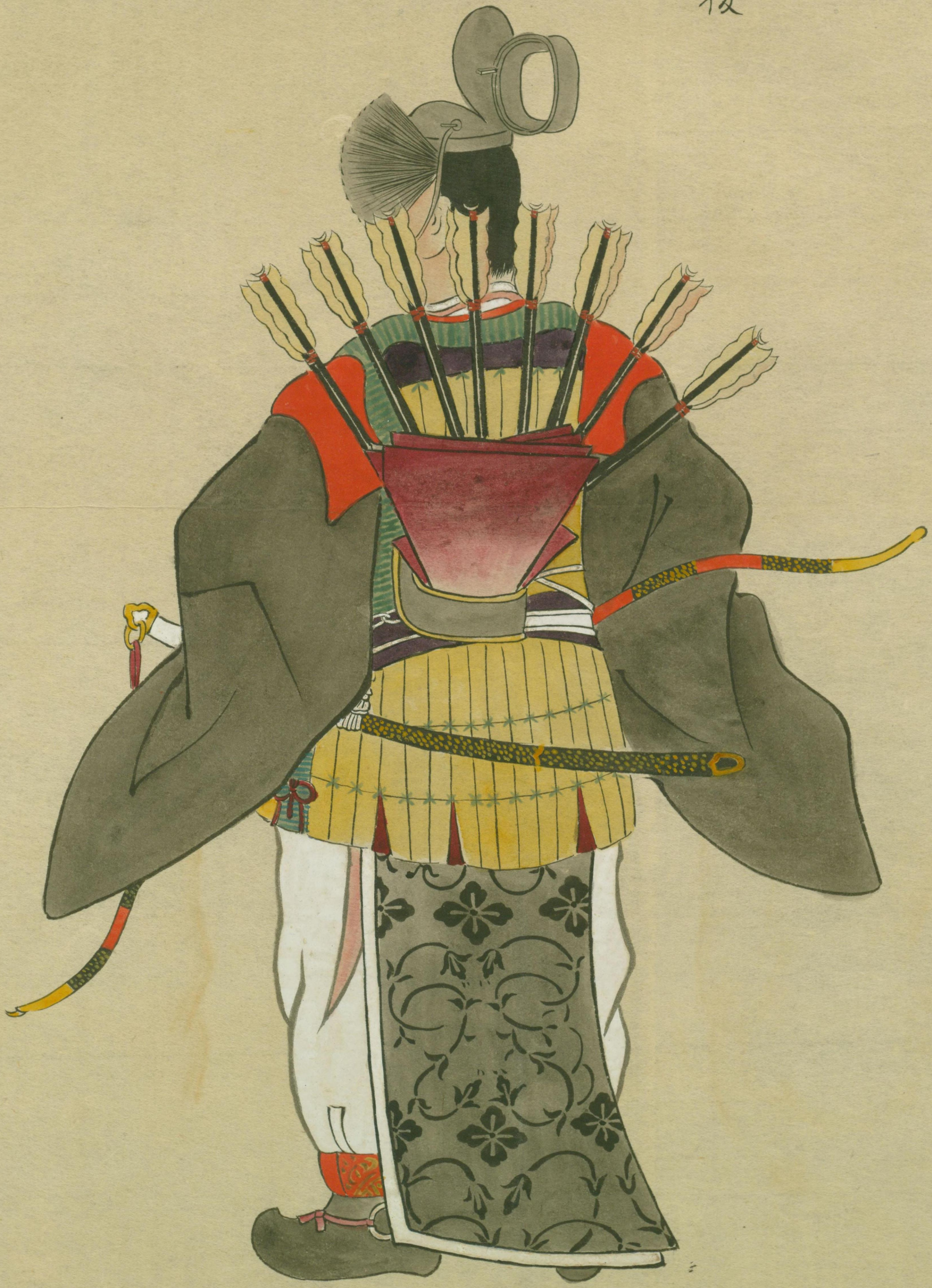
次將後

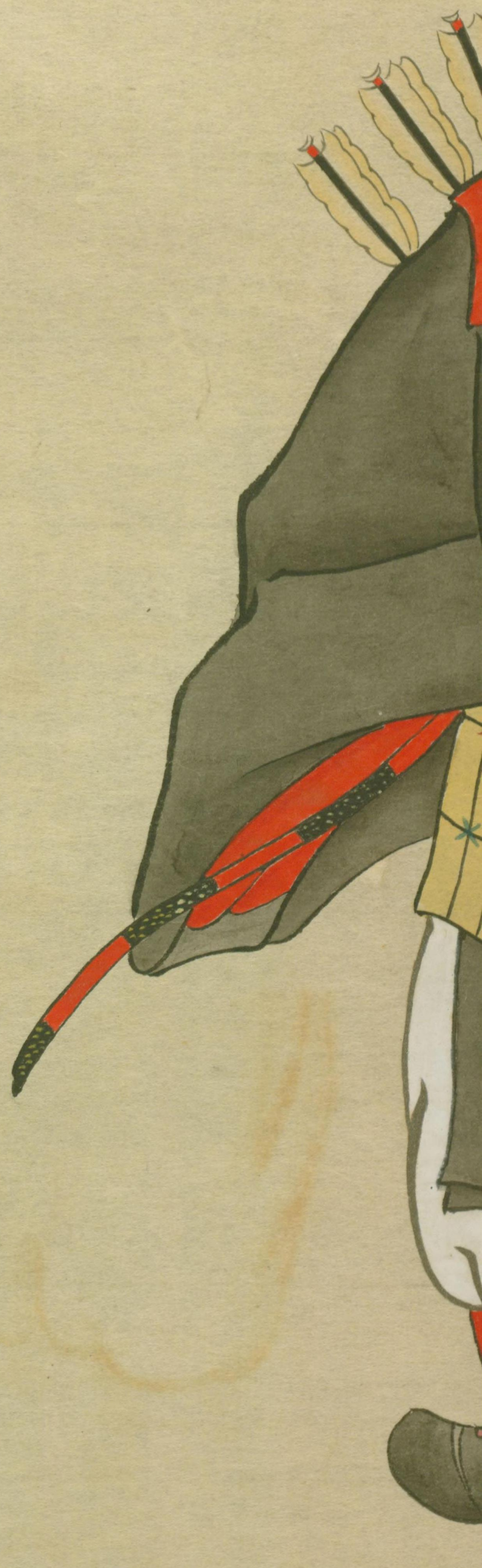


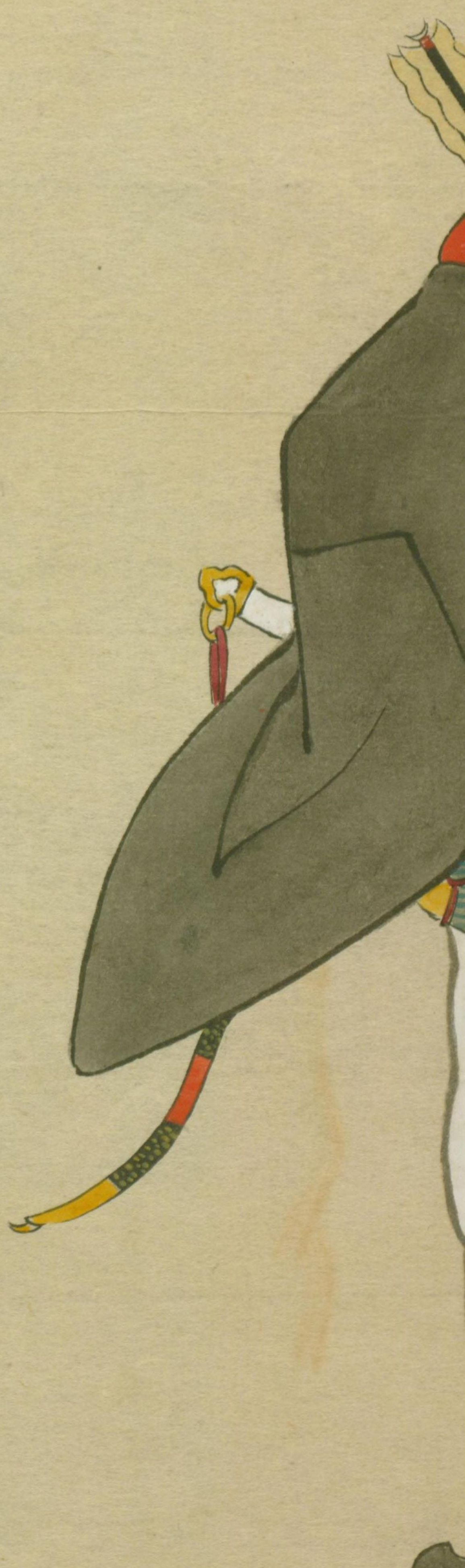
主殿

表袴の上ニ単衣をきる其上ニ礼服を着る小袖ハ赤し
帯ハ狩衣の帯のことし着して ゆふ烏帽を着たり
三山冠とも云烏皮履をはく

次将後

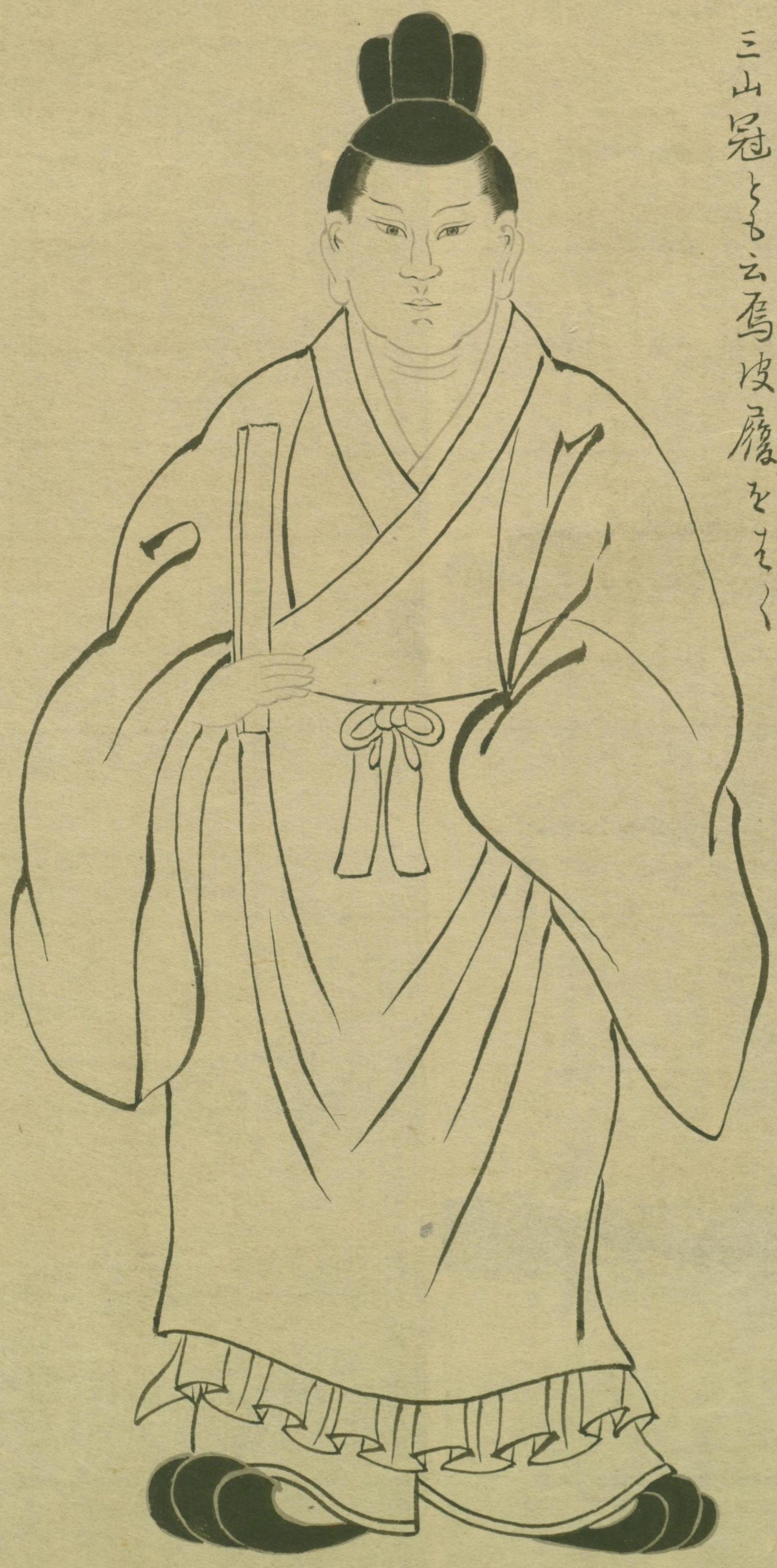






主殿

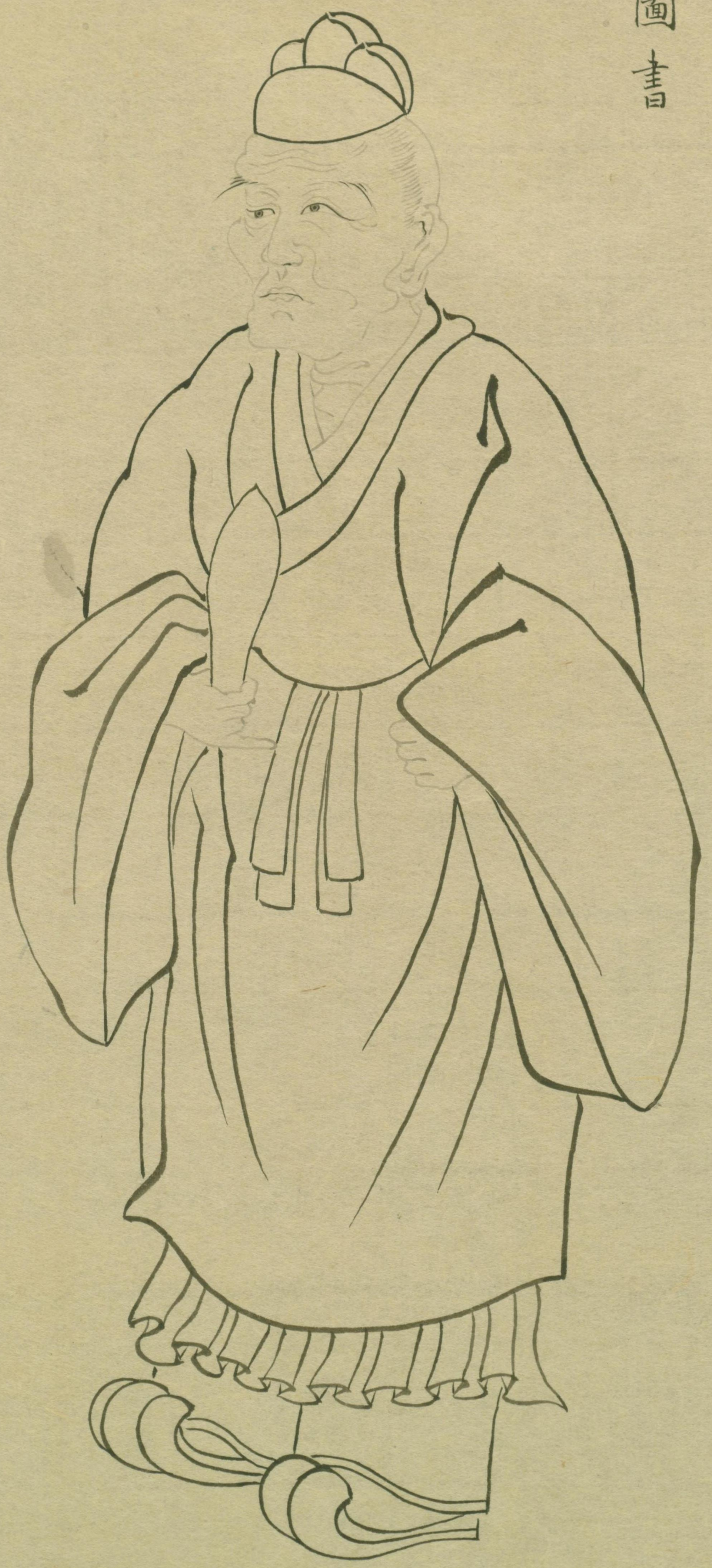
表袴の上ニ当色をきる其上ニ礼服を着る小袖ハなし
帯ハ朝衣の帯のごとし 前みそゆふ烏帽を着たり
三山冠とも云烏皮履をはく



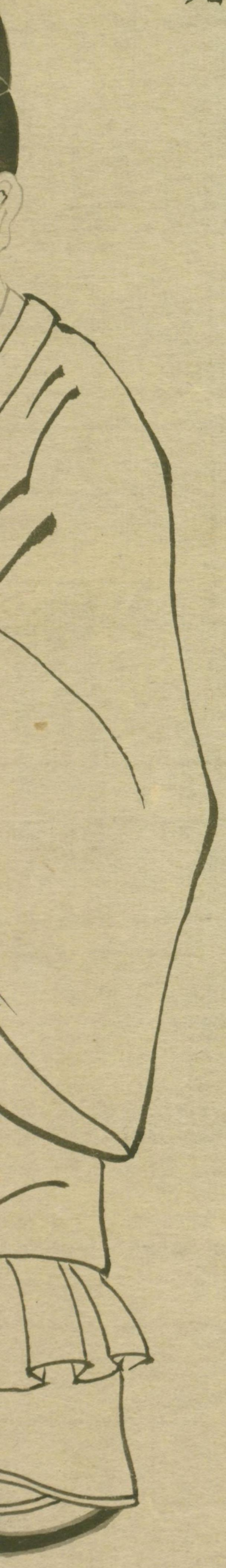
圖書

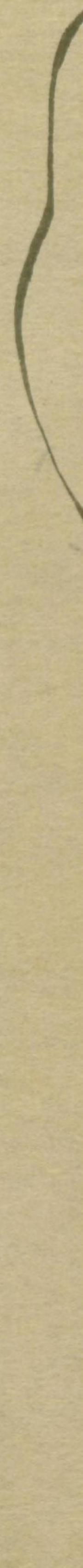
国立国会図書館　タイトル『礼服着用図』 請求記号 へニ-4

圖書

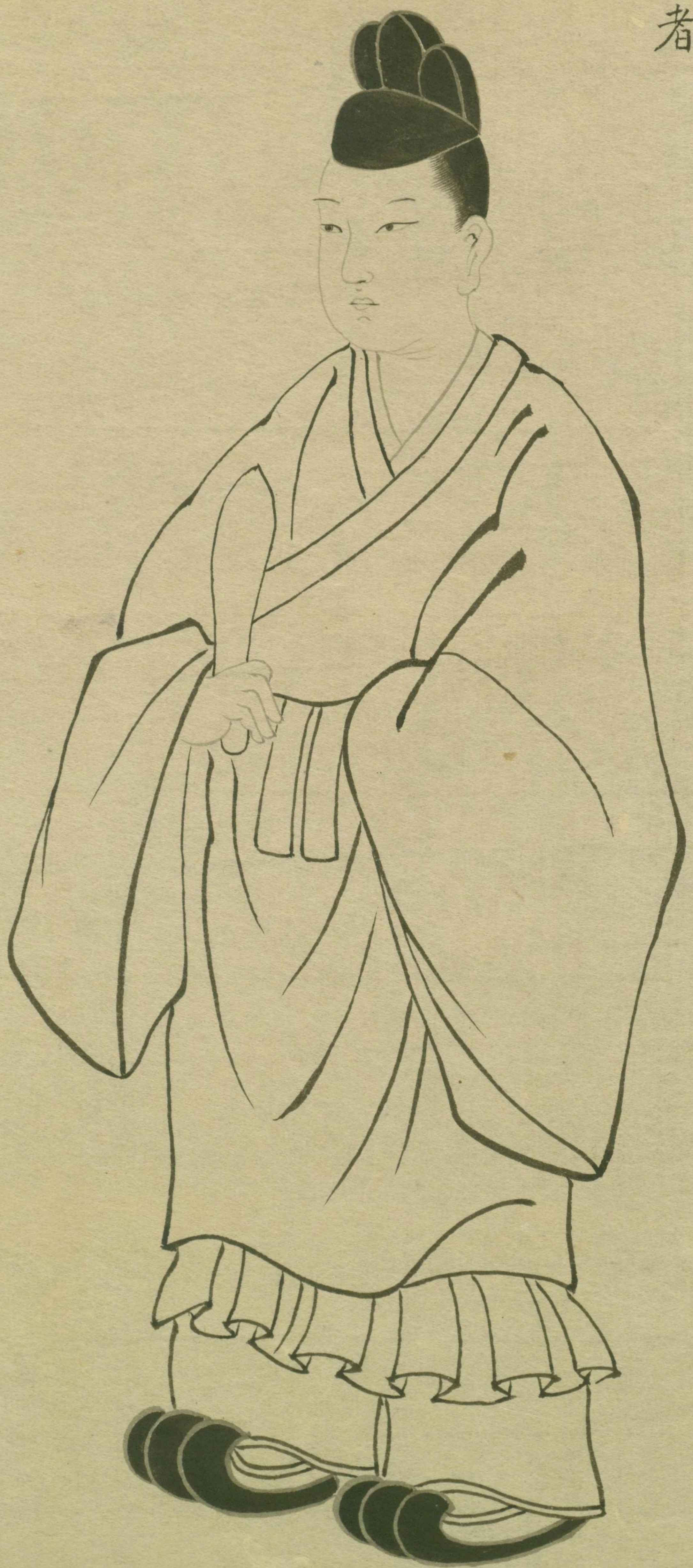


贊者

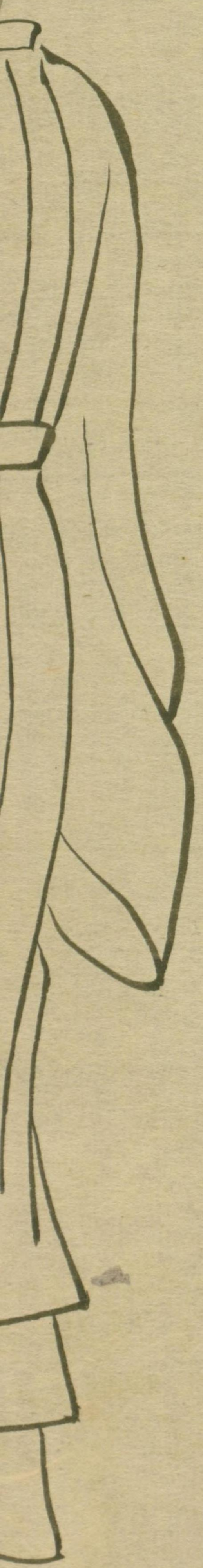




贊者

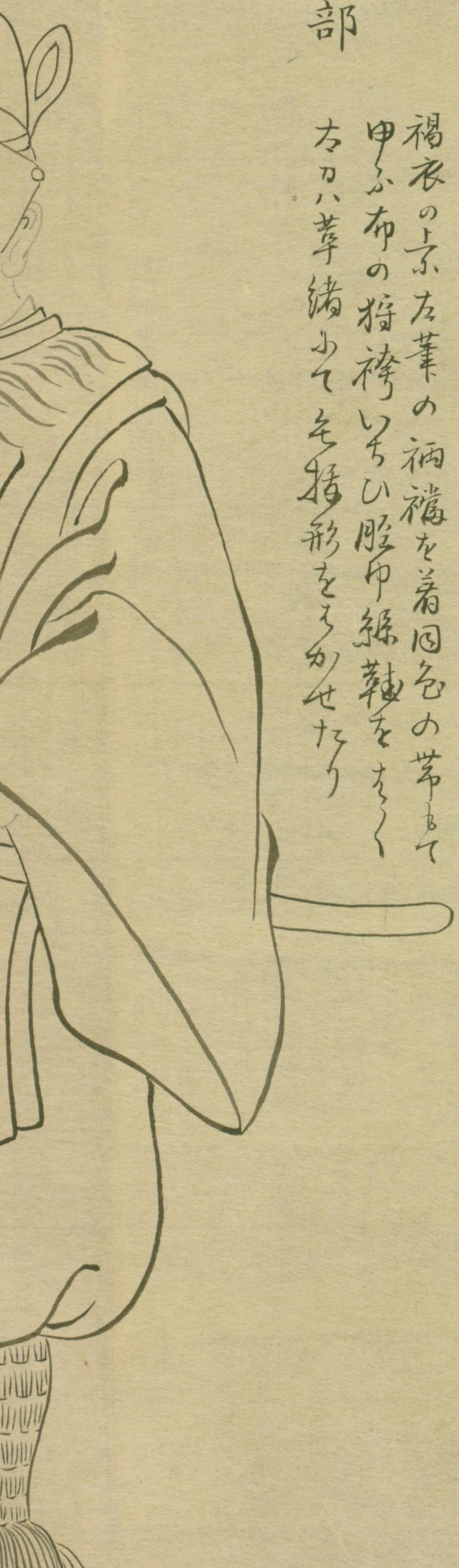


贊者

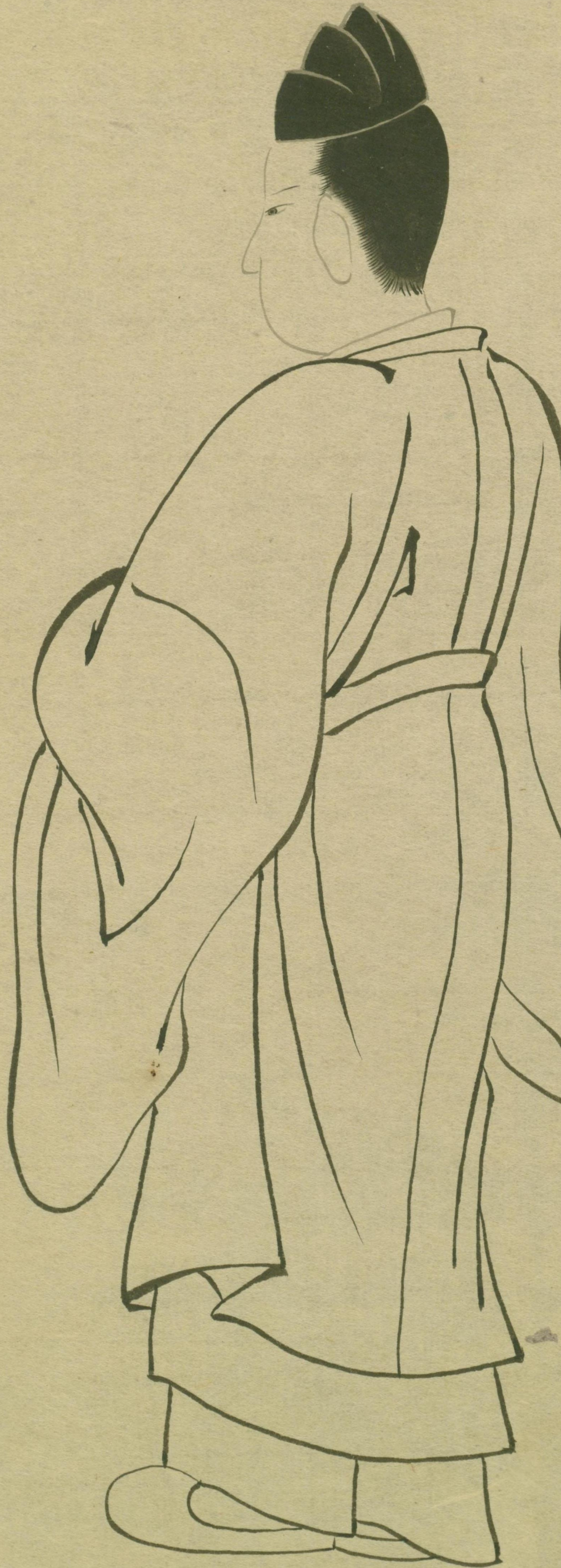


門部

褐衣の上に左葉の裲襠を着同色の帯して
甲ふ布の狩袴いちひ脛巾絲鞋をはく
太刀八葉緒にて毛拵形をちかせたり

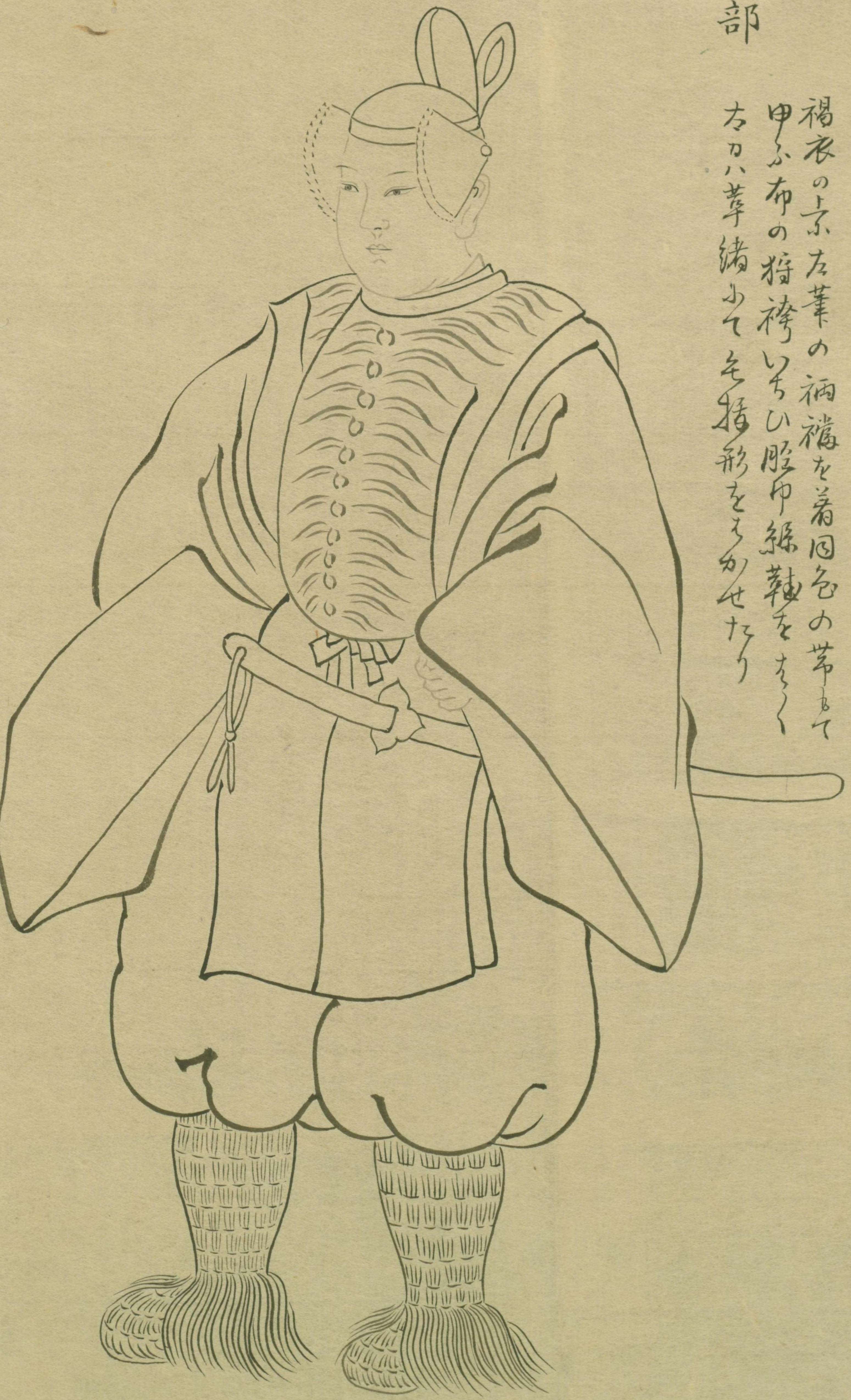


贊者



門部

褐衣の上に左華の裲襠を着同色の帯して
白ふ布の狩袴いちひ脛巾絲鞋をはく
太刀ハ革緒にて毛拔形をさゝせたり



右禮服着用之事近代大略如此
至其詳則俟後考者也
寛政元年後六月　山城　藤原以文

右禮服着用之事近代大略如此
至其詳則俟後考者也
寛政元年後六月　山城　藤原以文
右一帖以橋本肥後守經亮所蔵
令模寫畢
寛政八年五月廿七日　松岡平次郎辰方